

I P U M A G

Iwate Prefectural University Magazine 2013 Spring Vol.

55

[特集1]

復興を目指して、 地域の資源を 生かすには？

地域政策研究センターの地域協働研究

[特集2]

同窓会「素心知困の会」の 在学生サポート

IPU-研究室へようこそ!

IPU TOPICS

地域をつくる希望の星たち

県大いいね!キャンパスナビ



岩手県立大学

復興を目指して、地域の資源を生かすには？

三陸を楽しむプログラムを開発、地域に観光客と活気を呼び込む。



開学以来「地域社会への貢献」を基本方針とし、様々な地域課題に取り組んできた岩手県立大学。平成23年度からは「地域政策研究センター」を開設し、地域との連携を深めながら、研究成果の還元を目指しています。今回は、「地域協働研究」を通じ、大学の「今」をご紹介します。



「県民シンクタンク」として地域住民と連携しながら様々な課題解決に取り組む。

地域の活性化、少子高齢化社会への対応、新産業の育成など、県内に存在する様々な地域課題。このような課題を解決するためには、専門的な見地と多角的な視点、実行力が必要不可欠です。

「実学実践重視の教育研究」を掲げ、様々な地域貢献に力を入れてきた県立大学ですが、「知の拠点」として、これまで以上に「地域目線」で県民が抱える課題ニーズに向き合い、より組織的かつ複合的に地域課題に取り組む体制を強化。平成23年4月1日より「地域政策研究センター」を開設しました。

センターが立ち上がって、2年。平成23年度は東日本大震災の発生に伴い、研究テーマの重点を「震災復興」に置き、「暮らし分野」「産業経済分野」「社会生活基盤分野」の3分野で、15の研究課題に取り組んできました。

さらに平成24年度からは、「震災復興研究」を継続しながら、新たに「地域協働研究」を開始。学内教員が地域団体等と行う共同研究を対象とした「教員提案型」、学外から研究課題を公募し、教員の専門性とマッチングして進めていく「地域提案型」があり、大学の専門性を生かしながら、震災復興を最重要課題と捉えつつ、その他の「地域が抱える課題」にも、地域住民と共に考え、解決に取り組んでいます。

ジオツーリズムの開発を通じて、復興の基盤をつくる。

「地域協働研究」の中でも「地域提案型」の研究は、公募した課題を元に進めるため、より深く地域と結び付いた研究が行えるもの。その中の一つが、総合政策学部の伊藤英之准教授らを取り組む「いわて三陸オリジナルのジオツーリズムプログラムの開発と実践」です。

これは、三陸の地質遺産の保全活用を目指す「いわて三陸ジオパーク推進協議会」の提案で、資源の発掘と震災復興をテーマに、「三陸の魅力の世界に発信していこう」という取り組みです。「ジオパークは世界中にあるものなので、いかに三陸オリジナルを創り出すかがポイント。特に復興へ立ち上がる姿を資源と捉えることで、観光客を呼び込むことができると思っています」と、伊藤准教授は話します。

その足がかりとして始まったのが、被災した岩手町小本地区との復興教育の取り組み。子どもたちにジオツーリズムへの理解を促し、地域の未来を考えてもらおうと、2月24日「こどもふっこうかいぎin小本」が開催されました。当日は、小中学生13人が参加。本学の学生が進行役を務め、未来の小本の姿をワークショップ形式で考えながら、レゴブロックで表現しました。「郷土愛を育むことで、小本に根差した子どもたちが増える。彼らに戻りたくなるような地域をつくることから復興が始まります。地域活性化がジオパーク活動の最終目標の一つです」と、伊藤准教授。今回のワークショップを踏まえ、今後、地域資源を生かしたジオツアーの開発へ繋がることが期待されています。これから県立大学は、地域の要望や関係性を大切に、課題の解決への取り組みを推進していきます。

地域協働研究(平成24年度からの取り組み)

学内教員と地域団体等(県・市町村等の公共団体、地域団体、NPO等)との協働により、地域課題等を解決するための研究を行います。



教員提案型... 学内教員が地域団体等と行う共同研究を対象とし、地域ニーズに対応した研究を行います。今後も「震災復興研究」に重点を置きながら取り組んでいくこととしております。
地域提案型... 地域団体等を対象に地域課題を公募し、学内教員とのマッチングをした後に研究を実施します。より地域に直結した取り組み(研究)が期待されます。



- 1 未来の小本のまちをレゴで表現する子どもたち。みんな生き生きとした表情で、楽しそうに作業をしていた。
- 2 「こどもふっこうかいぎ」の開催に向けて、小本支所の皆さんと打ち合わせ。当日の進行のことなど詳細に。
- 3 会議の準備から当日の進行まですべて学生が担当。当日は3つのグループに分かれて話し合いが進められた。
- 4 「三陸ジオパーク構想」は、三陸地域の市町村が連携し、大地の遺産を活用した地域復興を図るための取り組み。
- 5 熱心にブロックを組み立てる小本中学校の生徒たち。手作業になると表情もイキイキする。
- 6 最後はそれぞれのグループが、みんなで話し合っ考えた「未来の小本」を発表した。
- 7 見事に出来上がった「未来の小本」のレゴ。防災設備や商店街や住居の位置等、しっかり考えられている。

「地域の方からのメッセージ」
岩手町小本支所長 加藤 勝彦 氏
震災前から岩手県立大学とジオツアーの取り組みを行ってきた経緯もあり、復興に向けて何かできないかと相談したのが、今回のワークショップを始めるきっかけです。小本小学校では地域の将来をテーマとした学習をしていました。小本中学校では「絆」かけがえのないあなたへ」という素晴らしい詩を作っていました。そういう基礎があったので、今回の経験を通してさらに小本の未来に希望をもてらえたらと思っています。復興はまだ始まったばかり。大学の皆さんにはぜひまちづくりの力になってほしい。専門的な視点からどんなアドバイスしていただきたいですね。



「今回作ったまちのレゴは、3月10日の復興メモリアルイベントで発表します」と話す、加藤さん。



「IPU-研究室」へようこそ!

岩手県立大学は、地域のシンクタンク。学内では日々、様々な研究や教育活動が行われています。こちらでは、大学全体を大きな研究室にみたくて様々な研究教育活動をご紹介します。



◎研究室プロフィール
産婦人科医師の不足による医療過疎地に悩む岩手県において、母子看護学講座では、助産師の能力強化の重要性に注目。2005年には「助産師活動支援プロジェクト in いわて」を発足し、2006年には大規模なアンケート調査を行い、出現現場での課題や助産師の意識を明らかにするなど、様々な研究活動を展開。助産師と医師、助産師同士が連携できる体制づくり、安心・安全な出産・育児環境の整備を目指して、さらなる研究を進めている。

- [研究メンバー]
- ※前列左から
福島 裕子 准教授
安藤 広子 教授
野口 恭子 准教授
 - ※後列左から
水野 仁子 助手
アングホップア司寿子 助教
蛸崎 奈津子 講師

今回の研究テーマ 助産師専門性の発揮に向けた研究

[看護学部 母子看護学講座]

助産師の力を高め、引き出すことで、出産・育児の環境改善をサポート。

女性が自由に出産の形を選ぶ時代になって、出産場所の減少や助産ケアの質の低下など、多くの課題を抱える岩手県。その中で重要視されてきているのが、助産師の持つ専門性の活用です。看護学部母子看護学講座では、2006年に助産師に対するアンケート調査を実施。その結果、助産師の専門性を発揮できる環境が整っておらず、助産師もまた訓練不足で自信を持っていないことが明らかになりました。そこで本講座では、2010年から中堅助産師を対象に、専門能力の向上を目的とした「助産実践能力強化研修事業」を実施。県外の先進病院や助産院などでの研修経験を通し、学びを現場に還元する取り組みを進めています。研修の成果を途切れさせることなく、確実に現場に還元できるよう、助産師の継続的な育成にも力を入れています。



被災地のマサークルと学生たちとの交流の様子。

被災地の実情と課題を学んだ経験を。今後の母子・女性支援に生かす。

岩手県で母子支援や女性健康支援に携わろうと考える学生や、実際に携わっている卒業生にとって、被災地の現状を知ることはとても大切なこと。本講座では、被災地での体験を今後の臨床実践活動につなげることを目的として、2月21日・22日、「被災地の母子・女性支援に関する看護特別演習」を実施しました。この演習には、学生9名、卒業生1名が参加。大槌町や山田町、宮古市、釜石市に実際に出向き、被災した母親たちの話を始め、母子・女性支援に携わる団体や看護師、相談員などの活動の様子を伺いながら、被災地の実情と課題について学びました。実際に被災地を体験した参加者たちは、気持ちを新たにしました。今後、それぞれの形で母子や女性への支援に携わることが期待されます。

平成24年度助産実践能力強化研修の法団式の様子。



復興を目指して、地域の資源を生かすには?

今回のテーマに関するアイデアをtwitterで募集したところ、ユニークなものから実現の可能性のありそうなものまで、多くのツイートをいただきました。その中から「地域資源を復興に活用できる」アイデアをいくつかご紹介します。



復興や地域活性というのは、外から人を呼ぶことが全てではないですね。県内に若者を留め、県民同士で盛り上がっている姿が真の地域活性だと思っています。岩手の資源は豊富にあれど、県民がその素晴らしさを知らないと盛り上がりません。ご当地キャラを使えば、県外からの一時的な注目を浴びることはできますが、くまモンのように成功するケースは少ないでしょう。外向けではなく、県民がそのキャラを内輪で愛でるのが良いと思います。まじめな話、エネルギー溢れる大学生が、岩手の食、伝統工芸、施設を実体験交えて発信できる場所があると活発そうですね。(リアルでもネットでも)普通に生活していると、岩手の若者が元気に活動する姿を見ることが少ないです。@sanchoku_com

三陸の復興資源はたくさんあります。隆起海岸と沈降海岸を有する景観、それらを要素とするジオパーク、三陸鉄道、今年運行予定のS L、海産物、食文化、スネカや虎舞など地域文化、「釜石の奇跡」とも言われる防災教育、さらに震災経験。これらをうまく組み合わせ味付けすることがキモ。@ickyo_ipu

資源と言っても目に見えるものだけでなく、その地域の文化も資源の一つとして考える。郷土芸能や建築物を他の地域の人にも楽しんでもらえるように発信することで注目を集めて観光客を増やすことができるのでは? @pol_mecon

人材育成。人材こそ、最大の地域資源。 @hata_hkhd

復興には何かとお金が必要になってくると思うので、地元の資源を活かした商品を作って売る。野菜や海草などの作物の場合は震災直後と今の畑や漁場の様子が写られる写真などをつけて「ここまで復興しました。みなさんのおかげでもう一歩です」など言葉を添えるといいかも。@c_pub

ジオパークの活動は、風景を構成する地質・地形や鉱物資源、それらの上に成り立っている文化や信仰までを含む社会を有機的に結びつけ、地域を活性化していく活動です。また、災害を風化させず、自然災害と共存していく姿勢も世界に誇れる地域資源の一つです。私たちの活動はまず、地域の魅力を未来の大人たち感じてもらう、積極的に活用していくこととする姿勢を構築することから始めています。

Comment



総合政策学部准教授 伊藤 英之

※誌面のスペース等の都合により、お寄せいただいたツイートのうち一部の掲載とさせていただきますのでご了承ください。

[特集に関するアイデア・ツイートの流れ] twitter

特集を読んだご意見・ご感想も募集していますので、公式アカウントにツイートください。

- 1 公式アカウントで「お題」を確認
- 2 twitterにアイデアをツイート
- 3 投稿アイデアが次号誌面に掲載

※ツイートの際には、文末に「#ipumag(発行号数)」を付記してください。「発行号数」は、本号では「55」、次号では「56」と変化しますので、「#ipumag55」「#ipumag56」のように表記してください。このことにより、様々なアイデア・ご意見を内容別にグループ化でき、誌面へ反映することができます。ご協力をお願いします。※皆様からのツイートは、本誌などで掲載させていただく予定です。ただし、誌面の都合により、全てを掲載することができない場合がありますのでご了承ください。

次回の「お題(テーマ)」はツイッター上で発表します。一般の皆様、学生・教職員の皆様からのツイートを広く募集しています。たくさんのアイデアお待ちしております!



「ミライトークカフェ」では、学生が話を聞きたい先輩のテーブルを自由に回り、自分の将来のヒントを探そうと、学生たちは熱心に話を聞いていた。

同窓会「素心知困の会」の在学生サポート 卒業生と在学生が一緒に考える 一人ひとりの“未来の自分”。

卒業後も母校との関わりを大事にする、同窓会。
岩手県立大学の場合も、母校のこと、そして後輩のことを思い、様々な活動を展開しています。
今回は、進路支援事業「ミライトークカフェ」を通して、
大学に関わる卒業生の姿と母校とのつながりをご紹介します。

大学との絆を保ちながら 母校の活動をサポートする。



「ミライトークカフェ」を取りまとめる、
現同窓会長の高橋孝典さん。



イベントは学食のテラスで開催。
ドリンクなども出て和やかな雰囲気。



入口には先輩のプロフィールを掲出。
これを参考にしながら話を聞きたい先輩を定める。



平成20年のホームカミングデーでは、
初代学長西澤先生の講演が行われた。

「就職活動の時、どんなことに気をつけましたか?」「今の仕事のやり甲斐はなんですか?」。在学生から様々な質問が投げかけられ、卒業生は自分の体験を交えながらアドバイス…。平成25年2月2日、学食3階のテラスで、在学生と卒業生が熱いトークを交わす光景が繰り返されました。これは「ミライトークカフェ」、在学生と卒業生が交流しながら卒業後の進路を共に考えるイベントです。

卒業生との交流を通して、
自分の未来の可能性を探す。

昨年引き続き2回目の開催となったこのカフェは、在学生進路支援事業として、岩手県立大学同窓会「素心知困(そしんちこん)の会」が主催したもの。「素心知困」とは、初代学長西澤潤二先生による、開学の精神を表す言

葉です。もともと母校の発展や社会文化の向上に寄与することを目的として発足した同窓会は、卒業生の交流(5年に1度のホームカミングデー)の開催に止まらず、研究活動への協力、大学祭の支援、震災発生を受けたの寄附制度の創設など、積極的に大学や地域社会に対して貢献活動を展開しています。今回行われた在学生への進路支援もその一貫で、卒業生との交流から自分の進路を見出し、もらいたいという思いから始まりました。

「私は一回生でしたので、先輩に話を聞くことさえできませんでしたが、でも今は、第一線の企業で活躍している先輩がたくさんいる。そして卒業生も母校の役に立ちたいと思つている。この思いを形にする場を創ろうと考えたのが始まりです」と同窓会長の高橋孝典さんは話します。

「このカフェは先輩との距離が近いので、ごくばりに本音が聞けます。他の学部の先輩やなかなかお目にかかれない職種の先輩も来ますので、視野を広げるには絶好の場。いろんな可能性を見つけるためにカフェを活用してほしいですね」と、同窓会長の高橋さんは期待を込めます。卒業後も母校の力になり、在学生をサポートする卒業生。そんな卒業生の姿に将来の自分を見出す在学生。両者が共に語り合い、それを自分の糧にすることができるよう、県立大学の魅力のひとつとなっています。

<岩手県立大学同窓会組織>

■ 岩手県立大学同窓会「素心知困の会」

- [主な活動]
- *ミライトークカフェ主催
 - *大学祭支援(広告出稿等)
 - *弓道場整備にかかる寄付
 - *10周年記念事業における地元学関係図書寄贈
 - *10周年記念事業における「岩手県立大学同窓生さんさ会」(同窓生相互で結成された任意団体)への物品購入支援
 - *震災発生を受けた寄付制度の創設
 - *同窓会関東支部交流会の開催支援(会場代等資金支援)
 - *同窓会東海支部交流会の開催支援(会場代等資金支援)

■ 盛岡短期大学部同窓会「成美会」

- [主な活動]
- *会報「成美」の発行及び成美会総会の開催
 - *成美会八戸支部、釜石支部の活動支援(地区活動補助として資金支援)
 - *新卒業生へ入会案内(会報・記念品贈呈)
 - *母校・社会への支援活動

■ 宮古短期大学部同窓会

- [主な活動]
- *同窓会総会の開催
 - *大学祭への寄付
 - *東日本大震災被災学生への就学支援事業
 - *10周年・20周年記念事業への寄付

[卒業生から]

株式会社ビッキオ 職種:インテグレーション
柳原 千穂さん(総合政策学部卒)



私は軽井沢でエコツアーガイドをしています。今後、成長が期待される分野で、学生たちに「こんな選択肢もあるんだ」と知ってもらいたくてカフェに参加しました。学生たちからいろんな質問を受けましたが、私自身も刺激をもらったと思います。社会には様々な仕事がありますから、あまり進路を狭めず、いろんな可能性を探してみたいですね。

[在学生から]

千田 夏皓さん(ソフトウェア情報学部3年)



就職活動中なのですが、意中の企業の先輩が来られると聞いて参加しました。業界研究のやり方とか面接の時の様子、実際の仕事の話、朝の過ごし方など、参考になる話をたくさん聞けたのが良かったですね。先輩たちが聞きやすい雰囲気をつくってくれたお陰で、とても話しやすかったです。身近に感じました。この経験を生かし、希望の企業に就職できるように頑張りたいと思います。



学生表彰「学長奨励賞」受賞のお知らせ

平成25年2月8日(金)に「学長奨励賞授与式」が行われ、「学業または研究活動」「課外活動」「社会活動」等で特に顕著な業績や功績などをあげた学生に対し、中村慶久学長から表彰状と記念品が授与されました。今回は29の個人及び団体が受賞しています。中村学長から、これを励みにますますがんばって欲しいという激励、本学の学生が様々なところで活躍していることを再認識し、嬉しく思うとの喜びの気持ちが述べられました。

ソフトウェア情報学研究科

- 斉藤 裕之 日本音響学会秋季研究発表会学生優秀発表賞受賞
- 鍾 琳 日本経営診断学会全国大会優秀賞受賞
- 高橋 奈穂美 映像情報メディア学会放送技術研究会優秀賞受賞
- 吉田 昌平 情報処理学会北海道支部技術研究賞
- 江島 良幸 日本経営工学会優秀学生賞受賞
- 菊池 大悟 電子情報通信学会東北支部優秀学生賞受賞
- 小田島 瑞希 情報処理学会全国大会学生奨励賞受賞、推奨卒業論文認定
- 紺野 和磨 電気学会東北支部優秀学生賞受賞ほか
- 菅原 遼介 情報処理学会情報教育シンポジウム奨励賞受賞
- 堀口 祐耶 観光情報学会全国大会大会奨励賞受賞
- 西岡 大 辻井重男セキュリティ学生論文賞セキュリティマネジメント学生賞受賞
- 下川原 健 情報処理学会全国大会学生奨励賞受賞
- 高橋 恭平 情報処理学会全国大会学生奨励賞受賞、推奨修士論文認定

ソフトウェア情報学部

- 生田 脩二 情報処理学会全国大会学生奨励賞受賞
- 市沢 公騎 情報処理学会全国大会学生奨励賞受賞
- 稲邊 優香 情報処理学会推奨卒業論文認定
- 佐々木 貴済 情報処理学会全国大会学生奨励賞受賞
- 武田 秀太 教育システム情報学会学生研究発表会優秀賞受賞
- 佐藤 英彦 卒業プロジェクトの実践力が評価

少林寺拳法部

- 大塚 学 少林寺拳法全国大会一般男女有段の部 競技の部敢闘賞受賞ほか

ETロボコン2012出場チームmonolith

- 千葉裕介、岡田卓也、今野翔太、菅原誠、中家巧貴、西銘大貴
- ETロボコン2012チャンピオンシップ大会競技部門大学出場チーム全国1位

さんざ踊り実行委員会

- 盛岡さんざ踊り最優秀賞3年連続受賞



平成24年度学長奨励賞 2.8

学生ボランティアセンター

- ぼうさい甲子園大学生の部大賞受賞

弓道部

- 菊池 ひかり 国民体育大会弓道競技遠的5位入賞

将棋部

- 小山 伶央 アマ王将戦全国大会3位入賞ほか

混声合唱団Polish

- ニューヨークでのHand in Hand Concert出演

青少年非行防止ボランティアサークルASSIST

- 社会貢献青少年表彰内閣府特命担当大臣表彰受賞

滝沢駅前防犯拠点建設協力学生

- 中村風香、村田結花、関川加津子、南館里江、柳田美里、吉田友美、中村順哉、大森洋希、村木祐太
- 滝沢駅前防犯拠点(ポリスボックス)建設に協力

宮古短期大学部 学生赤十字奉仕団

- 地域密着の奉仕活動を継続的に実施、日本赤十字社の学生赤十字奉仕団登録



親子で楽しめる！T体験教室を開催！

ソフトウェア情報学部では、幼稚園から高校までの皆さんを対象とした「T体験教室」を10月から3月まで全8回開催しました。iPadを使って大学構内を探検したり、体験型ゲームを通じてインターネットの仕組みを理解したり、わかりやすく楽しい体験型の内容です。中でも岩手県のご当地ヒーロー「鉄神ガンライザー」を通して岩手の歴史や文化を学ぶ「ガンライザー検定」(12月22日、2月24日開催)は大好評。たくさんの親子連れで会場は賑わいました。



12.14

幻想的な光に彩られた「夢灯り」

2012年12月14日、本学では毎年恒例となっている「夢灯り」が開催。雪に覆われ白く染まった屋外のモールは、イルミネーションの幻想的な光りに照らされ神秘的な空間となっていました。屋内では学生ホール棟を中心とし、歌やダンスなどの発表、ポストカードの販売や写真展示、模擬店販売や福引といった様々な企画が行われ、冬の寒さを吹き飛ばすかのような盛り上がりを見せていました。(出版委員会A・Y)

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。



11.26

滝沢村長と県大生が対談

それぞれの視点から滝沢を語り合う

昨年11月26日(月)に、本学大会議室にて県大生と柳村典秀村長の対談が開かれました。初めに村長は「新しい滝沢市として大学との連携を目指し学生と気軽に話したい」と挨拶し、市制移行のメリット・デメリットなどを語りかけました。学生は大学と連携することで若者が生き生きと暮らせる市をつくるためにどのような取り組みができるか、普段の生活やボランティアなどを通して感じたことも交えて議論しました。(出版委員会T・Y)



12.20

さらなる沿岸支援を目指して

「復興サポートオフィス田老」を開所

沿岸地域の支援活動を行う拠点として、宮古市田老に「岩手県立大学復興サポートオフィス田老」が開所しました。昨年12月20日には現地にて開所式が行われ、本学学長や宮古市長が出席しました。東日本大震災当時に田老地域のネットワーク確保を行うなどの支援を行ったソフトウェア情報学部柴田研究室の今後の研究活動や、グリーンピア田老を中心に行われている学生のボランティア活動の拠点として活躍が期待されます。植樹式を行う予定です。(出版委員会T・Y)



3.15

限りない未来への第一歩!宮古から世界へ

3月15日、宮古短期大学部の学位記授与式を行いました。2年前、東日本大震災津波の直後に入学した学生100人が卒業。学位記授与、式辞そして来賓祝辞などに続き、最後に卒業生代表挨拶として三浦静香さんから、新たな旅立ちへの決意と「卒業後もそれぞれの立場から復興に取組むことを使命と考える」との思いが述べられました。学生たちは、被災地である岩手県沿岸地域で過ごし学んだ様々な経験と想いを胸に、新しい世界と歩み始めます。



12.25,26,27



1.13

地域に根ざした取り組みで

「ぼうさい甲子園」大賞を受賞

地域や学校における防災への優れた取り組みを表彰する「ぼうさい甲子園」にて、本学学生ボランティアセンターが、大学生の部で大賞を受賞しました。1月13日に神戸市中央区の兵庫県公館にて行われた表彰式には、ボランティアセンターからメンバー2名が参加し、活動について報告。「いわてGINGA-NETプロジェクト」や学生ボランティアセンターでの活動について、普段から地域のニーズを大事にし、災害時の緊急対応にも備える取り組みの姿を紹介しました。

人事情報

新任学長、副学長等(平成25年4月1日付け)

- 学長 中村 慶久
- 副学長 副学長(学学) 齋藤 俊明

学部長等

- 共通教育センター長 姜 泰植

本部長

- 学生支援本部長 似鳥 徹
- 企画本部長 石堂 淳

高等教育推進センター長

- 佐々木 民夫

【教員の異動等】

退職(平成25年3月31日付け)

- 社会福祉学部 教授 佐々木 民夫
- 社会福祉学部 准教授 細田 重憲
- ソフトウェア情報学部 教授 伊藤 憲三
- 看護学部 教授 安藤 広子
- 看護学部 助教 原 瑞恵
- 看護学部 助教 田辺 有理子
- 看護学部 助教 齋藤 貴子
- 看護学部 助教 野田 真貴子
- 看護学部 助手 稲葉 文香

- ソフトウェア情報学部 准教授 高山 毅
- ソフトウェア情報学部 講師 窪田 諭
- 総合政策学部 教授 佐藤 利明
- 総合政策学部 准教授 阿部 昇士

採用(平成25年4月1日付け)

- 看護学部 助教 藤澤 由香
- 看護学部 助手 根田 工子
- 社会福祉学部 講師 柏葉 英美
- 社会福祉学部 講師 吉田 仁美
- ソフトウェア情報学部 助教 西岡 大
- ソフトウェア情報学部 准教授 泉 桂子
- 総合政策学部 講師 近藤 信一
- 共通教育センター 講師 佐々 智将
- 盛岡短期大学部 助手 岩本 佳恵

昇任(平成25年4月1日付け)

- 看護学部 教授 福島 裕子
- 看護学部 准教授 井上 都之
- 看護学部 准教授 蛸崎 奈津子
- 看護学部 准教授 高橋 有里
- 社会福祉学部 教授 咲間 まり子
- 社会福祉学部 准教授 田中 秀一郎
- 社会福祉学部 准教授 山田 幸恵

- 社会福祉学部 准教授 吉田 清子
- 社会福祉学部 助教 阿部 明子
- 社会福祉学部 助教 岩淵 由美
- 社会福祉学部 助教 下平 なをみ
- 社会福祉学部 助教 高田 梨恵
- 社会福祉学部 助教 山崎 陽史
- ソフトウェア情報学部 教授 伊藤 慶明
- ソフトウェア情報学部 教授 佐々木 淳
- ソフトウェア情報学部 准教授 市川 尚
- ソフトウェア情報学部 准教授 高木 正則
- ソフトウェア情報学部 准教授 ブリマオキ ティッキアルティアンジャー
- 総合政策学部 教授 吉木 岳哉
- 総合政策学部 准教授 島田 直明
- 総合政策学部 准教授 茅野 恒秀
- 総合政策学部 准教授 新田 義修
- 共通教育センター 教授 黒岩 幸子
- 共通教育センター 教授 三宅 禎子
- 共通教育センター 准教授 高橋 英也
- 盛岡短期大学部 准教授 熊本 早苗

地域をつくる 希望の星たち

目指すのは、社員の心の「保健室」。
何でも話してもらえ、存在になりたいですね。



卒業生

千葉千佳子 「NTT東日本東北病院 岩手健康管理センター/産業保健師」

高校時代は養護教諭になるのが夢でした。学校の中でも保健室は特別で、誰もが安心していられる場所。いつか養護教諭になつて生徒の拠り所になりたいと考えていた時に、岩手県立大学を知りました。調べてみると県立大学は、看護師や保健師の資格も取れる。選択肢がいろいろあることが、進学を決め手になりました。

大学に入ってから保健師に興味を持ったのですが、どの道に進むにしても、看護の基礎をしっかり学べたのはとても良かった。基礎があるかないかで、その後の仕事がいぶん違ったと思います。

就職の関口が狭かったこともあり、養護教諭ではなく保健師の道へ。病院、保健所を経て、現在はNTT東日本グループの産業保健師として働いています。2人の保健師で約1300人を担当し、社員が心身共に健康な生活を送れるようにサポートするのが仕事。健康診断の調整や疾病管理、健康相談など、内容も多岐に渡ります。

難しいのは、病気ではない人に予防を呼びかけて実践してもらうこと。例えば禁煙などの習慣改善は時間がかかるものですし、話自体を受け入れてもらえないこともあります。でも、どんなにムダが多くても、ついで結果として返ってくるものがある。そういう、そんな気持ちで仕事に向き合っています。

まだまだ未熟なので心を開いて話してもらうには至りませんが、いつか社員たちの心の「保健室」となるような存在になりたいですね。

地域貢献を使命の一つに掲げる
岩手県立大学。
学習や研究に励みながら
地域に役立つ力を磨く在学生と、
仕事を通じて
地域づくりに関わる卒業生、
それぞれの熱い思いを
紹介します。

在学生

菅原 遼介 「ソフトウエア情報学研究所 博士前期課程1年」

1989年宮城県栗原市生まれ。宮城県仙台高等学校卒業。中学・高校時代はサッカー一筋で、大学でもIT系スポーツ集団「オフサイドナウ」を立ち上げ、活動中。昨年11月には、会社役員をしている縁で台湾に3ヶ月間留学。日本人は自分だけという状況の中で学び、「どこに行ってもなんとかなる」と度胸がついたという。

現在は、就職するか、研究者を目指すかで、進路を検討中。いずれ何らかの形で、自分を育ててくれた岩手に恩返しができるいいなと思っています。

すべてに共通するのは、新しいものを創り出すことへの興味です。既存のものに乗っかっても、つまらないじゃないですか。ゼロからアイデアを生み出すことに楽しさを感じますね。

研究室では、ゲーム感覚で学習できる「盛岡もの識り検定」のシステム開発を担当。課外活動では、大学祭で新たなイベントを成功させ、新たなビジネスを創出する「学生団体FLAG」を主宰。他にも学部の学生会を作ったり、先輩が起業した会社にも参加し、会社役員を続けています。

「なんとなくソフトウェアに興味があったから」。実はこれが岩手県立大学を選んだ理由なんです。それまで面倒くさがり屋で、わりと適当だった自分でも、入学して間もない1年生の後期、その後の方向性を大きく変える二つの出来事があったんです。

一つは、群馬で行われた「政策情報学生交流会」で、他大学の学生と比べて自分が何も話せなかったこと。すごく悔しい思いをして、このままじゃダメだと痛感しました。もう一つは、研究室で起業を志す先輩と出会ったこと。それまで就職しか考えていなかったのですが、先輩の話聞いて「こんな選択肢もあったのか!」と衝撃を受けたんです。以来、物事に取り組む姿勢が変わり、興味を持ったら積極的に挑戦するようになりました。

既存のものを踏襲してもつまらない。
新たなアイデアを生み出すことこそ面白い。

県大いいね! キャンパス・アテンダントがご案内します!

キャンパスナビ

学生目線で大学の魅力を楽しく発信するキャンパス・アテンダント。現在、46名の学生たちが活躍中です。そんな彼らが、大学の知られざる魅力を紹介するのがこのコーナー。毎回ユニークなネタが飛び出しますので、ご期待ください!



Vol.3 / 学生ライフを5倍楽しむ課外活動のすすめ

高校の課外活動といえば部活動が中心ですが、大学生の場合は幅広い!文化・体育系を始め、ボランティアや学生団体の活動など、サークル数だけでも70以上。今回は、5つの活動に取り組むキャンパス・アテンダントにスポットを当て、充実した県大ライフをご紹介します。

大学祭実行委員会も!

学生会活動をやってみたいと思って、チャレンジ!一年生の時は、学生と教職員によるイベントの取りまとめ役を経験。準備期間も長く、大変ですがみんなで作るものを作るって楽しいです!



こちらが学食です♥

学生による大学広報を行うチーム、キャンパス・アテンダント(CA)。構内を案内する先輩の姿を見て「かっこいいなあ」と憧れを抱いたのが、CAになったきっかけ。まだ経験は浅いのですが、もっと大学のことを詳しく学べたらと思っています。



ピアサポーターも!

心理学への興味から、学生の相談にのる「ピアサポーター」に挑戦!学生同士でのサポートを行います。履修の仕方や暮らしのことなど、相談内容はいろいろ。中には恋の悩みなど、ハイレベルな相談も…(笑)

勉強と課外活動を両立してエンジョイ!



ボランティア活動も!

週1回、在宅で頑張る重度障がい者の方の夜間介護をしています。顔をふいたり、人工呼吸器の管理を行ったり、身の回りのお世話をしています。



文化スポーツ系のサークルもたくさんあるよ!

あわこわ挑戦する課外活動の達人!

伊藤 千秋 社会福祉学部2年

大学生になったら、今までやったことのないことに挑戦しようと思っていたんです。「大変でしょ?」ってよくいわれますが、自分自身はとっても楽しい。大学には興味を持ったらすぐ実行できる環境がありますし、いろいろ体験することで、自分の幅や可能性が広がりますね。もちろん学業は最優先ですよ!!(笑)

興味を持ったらチャレンジ! 大学生活が楽しくなるよ!

キャンパスアテンダントも!



サークル「アシスト」も!

これは、子どもたちの非行防止を目的としたボランティアサークル。放課後の見回りや防犯教室の開催、繁華街の環境美化活動などを行っています。



あいさつ運動実施中!

編集後記

今号の「IPU研究室へようこそ」では、本学看護学部母子看護学講座による、助産師の専門性強化の研究について取り上げています。産婦人科医の不足とそれに伴う産科の減少など、岩手県での周産期医療の状況を巡り、大学ができることは何か。看護学部これまでの研究を通じた、現在実践フィールドにいる助産師の専門性の発揮に向けた研修の実施や教育への取組みなど、地域の動きに密着した県立大ならではの活動が感じられるトピックです。(企画室・T・O)

今回私はサポートオフィス田老の記事を書かせていただきました。私は宮古市田老出身で、震災当時には自分のことで一杯でしたが、本学に入学してからは研究やボランティアで田老に赴く先生方や学生を見て頼もしい印象を受けました。今回沿岸地域での活動拠点ができ、復興へ携わるチャンスが増えました。沿岸地域と本学が繋がることで、支援するだけでなく相互に協力しながら岩手県の復興を支えるような新しい取り組みができるのではないかと思います。(出版委員会・Y・Y)

スキーやスケートといったウィンタースポーツ、雪まつりや雪あかりなど、冬には冬の楽しみがたくさんあります。本学でも毎年恒例の冬のイベント「夢灯り」が昨年12月に開催され、多くの学生が発表や参加など様々な形でイベントに関わり、大きな賑わいを見せていました。しかし、長かった岩手の冬もそろそろ終わりを迎え、季節は春へと変わっていきます。新しい出会いも含め、春ならではの楽しみを見つけたいと思います。(出版委員会・A・Y)



岩手県立大学 企画室 協力:岩手県立大学出版委員会
Iwate Prefectural University

〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001
[URL]http://www.iwate-pu.ac.jp/
[e-mail]management@ml.iwate-pu.ac.jp 発行:2013年3月31日